



「燃える氷」メタンハイドレート

山形・島根沖でも有望

国産燃料として期待されている海底資源「メタンハイドレート」が、秋田・山形両県の沖合と隠岐諸島（島根県）周辺に存在する可能性が高いことが、経済産業省の調査でわかった。経産省は24日から、日本海側で初めてとなる掘削調査を始め、詳しく調べ

る。「燃える氷」とよばれる

メタンハイドレートは、メタンと水が結びついて結晶化した海底資源だ。これが存在している場合に行ける「ガスチムニー構造」と呼ばれる地形が、秋田・山形沖の海底で直径400メートルにわたって発見され、隠岐周辺の海底でも直径750メートルの範囲で見つかった。昨年、新潟県上越沖と能登半島沖でも同様の地形が

見つかった。経産省は、地形の分析から、上越沖と秋田・山形沖がとくに有望だとみて、掘削調査をする。地質サンプルを取って存在を確かめるとい

う。太平洋側では、愛知県沖で昨年3月、世界で初めて試掘に成功しており、早ければ2023年にも商業化に向けた事業を立ち上げた

い考えた。日本近海には、日本の天然ガス消費量の100年分にあたる埋蔵量があるという指摘もある。

（西尾邦明）